研究テーマ	甲州印伝への山梨県産鹿革の活用とプロダクトの試作開発		
担当者 （所属）	串田賢一・鈴木文晃・佐藤博紀（デザイン）・小平真佐夫（富士山研）		
研究区分	総理研研究	研究期間	平成 27～28 年度

【背景・目的】

近年，個体数が著しく増加しているニホンジカによる森林・農業被害が深刻化する中，山梨県では，被害低減に向け山梨県第二種特定鳥獣管理計画に基づき個体数調整に取り組んでいる．

捕獲されたニホンジカのほとんどは廃棄処分されており，食用として流通しているわずかな量のニホンジカについても，食肉加工の残渣となる皮は廃棄処分されているのが現状である．このニホンジカの皮を有効活用するためには，より付加価値の高い製品開発を行い，事例やエビデンスづくりを推進していく必要がある．

本研究は，本県ニホンジカ由来の皮を甲州印伝の素材として利用するための取組を行い，社会的課題の解決と伝統工芸振興を結びつける中で新たな価値づくりに資することを目的として実施した．

【得られた成果】

1. なめし革の調製

昨年度得られた白色のなめし革を印伝加工に適したものとするよう調製に取り組んだ．銀面，皮裏それぞれの方向から削り込んだ後，撥水処理～印伝加工を施して仕上がりを比較した．その結果，銀面層を利用した加工が良好な結果を得られることが分かった．その後，小物類用及び大型製品用に革の厚みを 0.8mm と 1.2mm に設定して仕上げを行い，試作品用の革とした．

2. 印伝文様の新規開発

本研究で試作する印伝製品に使用するための新柄の開発に取り組んだ．スクリーン印刷版を簡易型紙として用い，漆文様の仕上りを確認しながらドット等の間隔や大きさなどの調整を行い，7 点の新柄を作製した．（図 1）

3. 新たな印伝製品のデザインと試作

実売を強く意識した定番商品，従来と異なるターゲット層を意識した商品の二つの方向性を設定し，次の製品をデザイン～製作した．（図 2）
①名刺ケース　②長財布　③大型トートバッグ
④縦型トートバッグ　⑤富士山型ポーチ

4. 試作品の市場性評価の実施

試作品の一部を「第 83 回東京インターナショナルギフトショー」に出展，百貨店バイヤーやセレクトショップ購買担当者等の受容性評価を行った．その結果，コンセプト，製品デザインともに高い評価を得た．（図 3）

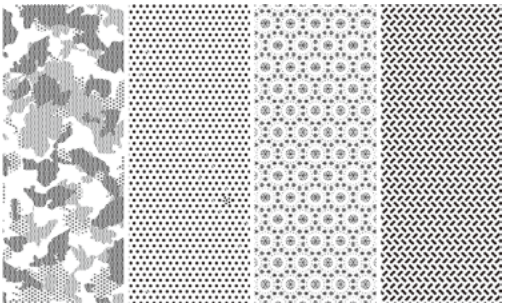

図 1　新たに作製した印伝文様（一部抜粋）

図 2　試作品（名刺ケース・長財布）

図 3　ギフトショー出展の様子

【成果の応用範囲・留意点】

○　作製した鹿なめし革は，印伝加工用としては，まだ表面改質の余地がある．
○　県産鹿革を用いた印伝製品に対するバイヤー等の反応は良好であり，一定の市場性が見込める．
○　ニホンジカの有効利用のためには，需給バランスを維持することが重要であり，捕獲から市場投入までの一連のビジネスネットワークの構築が必要である．